

一般社団法人 山梨県理学療法士会 立候補趣旨（理事）※届け出順

平賀 篤：帝京科学大学



この度山梨県理学療法士会の理事に立候補致しました平賀篤です。前回から引き続き理事に立候補させていただいた理由は2つあります。1つ目は、「県士会員間の連携強化」を充実したいと考えているからです。士会支部局長として士会員の横の連携を図るよう努め、少しずつではありますが顔の見える関係が意識されてきたかと感じております。医療・介護・福祉分野のシームレスな対応や施設間相互連携強化に加え、若手の積極的参加を推進すべく引き続き行いたいと考えます。2つ目は「臨床からのエビデンス発信」に尽力したいと考えたからです。学術誌の刊行や学術事業、臨床と養成校が連携した共同研究の場の提供など様々な取り組みを通じ、臨床でのエビデンス構築を支援できるような取り組みができればと考えております。どうぞよろしくお願いたします。



原田智史：石和温泉病院

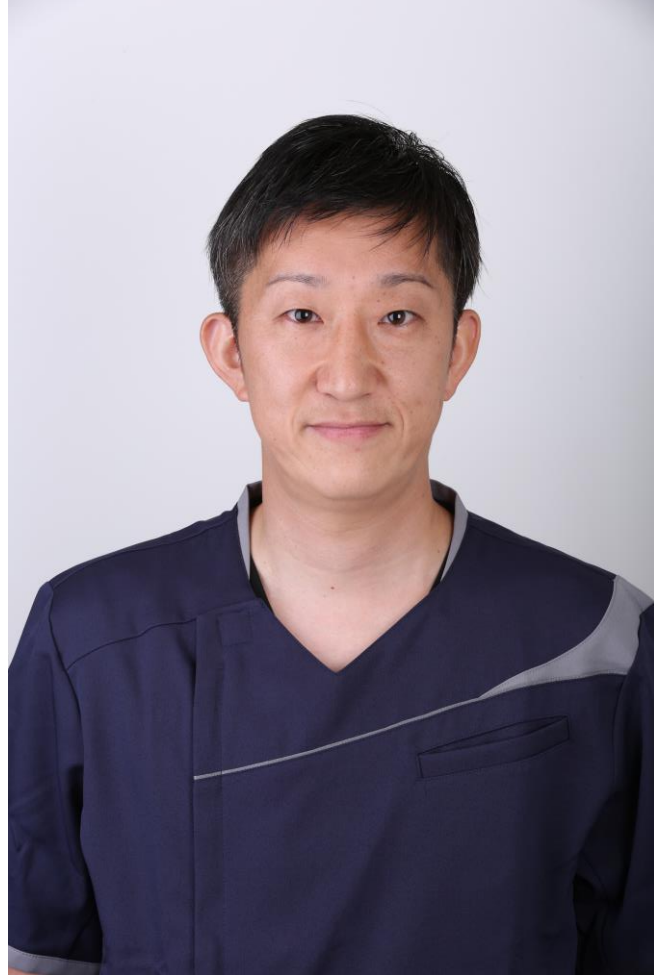
私はこれまで、高齢者の介護予防に関わる中で、理学療法士が地域の中で果たせる役割の大きさを実感してきました。一方で、その取り組みや実践方法が十分に共有されておらず、興味はあっても一歩踏み出しにくいと感じている方も多いのではないかと感じています。私は、予防分野の取り組みを軸にしながら、会員の皆様と一緒に学び合い、気軽に参加できる環境づくりに取り組みたいと考え、理事に立候補いたしました。具体的には、実際の現場を見て学べる機会や、日々の臨床に活かせる取り組みを共有できる場を増やし、「参加してみたい」「参加してよかった」と思えるような士会づくりを目指していきたいと考えています。一人でできることには限りがありますが、会員の皆様と意見を出し合いながら、地域で活かせる学びやつながりを少しずつ広げていけたらと思っています。

微力ではありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

菊池 信：山梨リハビリテーション病院



この度、県士会のさらなる発展と持続可能な運営に貢献したく、理事に立候補いたしました。私はこれまで4期にわたり、学術大会局長及び業務推進局長を務めて参りました。この間に県士会活動は、コロナ禍や生成AIの発達などの時代の変革と共にその業務形態を変えながら、会員の皆様に役立つ、また参画しやすい環境を整えながら歩を進めてきたと考えます。今後はさらなる組織変革の時期を迎えるものと思われます。協会では従来の取り組みに加え、推進リーダー制度が刷新され、母子保健や産業保健分野での理学療法士の活躍が期待されているところと考えます。業務推進局では昨年度から会員の皆様への周知や研修会開催に向けて準備を進めております。引き続き山梨県士会の活性化と理学療法士の社会的信頼の向上に粉骨砕身取り組む所存です。皆様のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



山下浩樹：甲州リハビリテーション病院

これまで事務管理局長として、会の運営基盤の整備や円滑な事業推進に努めてまいりました。社会情勢や医療環境が大きく変化する中で、理学療法士に求められる役割はますます多様化・高度化しています。こうした時代に対応するためには、組織としての機動力と会員相互の連携強化が不可欠であると考えております。今後もこれまでの経験を活かし、透明性の高い運営と効率的な事務体制の構築を推進するとともに、会員の皆様にとって有益で参加しやすい会の実現に尽力し、山梨県理学療法士会に貢献できたらと考え、理事に立候補いたします。宜しくお願い申し上げます。



大西正紀：甲州リハビリテーション病院

医療、介護の分野で私たち理学療法士を取り巻く環境は変化しています。そのような変化の中で私たち理学療法士は様々な分野での活躍が期待され、成果も求められています。変化に対応し、期待に応えていくためには理学療法士全体の質の向上、県内理学療法士の連携の強化が必要になると思います。連携の強化を図り、理学療法士同士が繋がりを持ち、病院、施設等の枠を超え、繋がりを持った理学療法の提供を実施できることが理学療法の対象となる方々によりよい理学療法の提供が行えることに繋がると考えます。また、それらを行うことにより理学療法の対象となる方々の期待に応えることに繋がると思います。それには山梨県理学療法士会全体の質の向上、山梨県理学療法士会の組織としての強化が必要になると思います。それらに対して今までの経験を活かし、微力ながら貢献できればと思い立候補いたします。



磯野 賢：甲州ケア・ホーム

令和3年6月から山梨県理学療法士会の会長を務めさせていただいております。コロナ禍もあって十分な活動が出来なかった時期と比べると、事業を再開あるいは新たに開始することが出来ました。その中では会員同士の新たなつながり作りに力を入れるとともに組織を変更し、強化を図って実行力のある組織を目指してまいりました。また、協会でも取り組んでいる理学療法士の社会的地位の向上、政策提言に向けた活動にも取り組んでまいりました。このような中で、様々な課題を抱える県士会を次の世代に繋ぐための活動が出来ればと考えています。



木村 良：湯村温泉病院

私は2004年4月に理学療法士となり、その年の山梨県理学療法士会交流会に参加させていただいたことが県士会との出会いでした。その場で諸先輩方の理学療法士に対する熱い思いに感銘を受け、入会後は当時の福祉厚生局や地域支援事業等推進委員会において微力ながら活動に参加して参りました。諸先輩方のご活躍もあり理学療法士という職業は医療・介護分野においてその質や広がりが急成長してきたと感じています。そして昨今はそれぞれの分野での特色を活かしつつ「連携」することが求められており、2026年度診療報酬改定でもその要素は重要視されています。施設間での理学療法士連携や地域における多職種連携をより効率的・効果的にするためには職能団体である県士会の役割がとても重要であると考え、これまでの知識や経験を活かしながら県士会運営に尽力したいと思い立候補いたしました。何卒よろしくお願い申し上げます。



古屋 伴仁：韮崎市立病院

この度、引き続き、県士会活動の運営へ携りたく、理事へ立候補いたしました。理事、業務推進局長として、委託事業部、スポーツ理学療法部、調査研究部にに関わり、他団体等からの依頼に多数対応をしてきました。その中で、理学療法士が様々な場で必要とされていることを実感していますが、一方、これらの需要に対し、県士会全体として対応できていないと感じております。多くの士会員の方々に、このような場で活躍していただける体制を整えて行きたいと考えております。健康増進や障がい予防、またスポーツ分野への活動も行い、社会貢献を果たし、理学療法士が地域社会に必要とされ、より活躍できる環境をつくりたいと考えております。より良い士会活動となるために、士会員の皆様と共に士会運営に取り組んで行きたいと考えております。



渡邊 修司：帝京科学大学

このたび、山梨県理学療法士会理事選挙に立候補させていただきました。理学療法士を取り巻く環境は、医療保険領域にとどまらず、介護・予防・産業分野など多岐にわたり、その役割は一層拡大しています。このような中で、本会が会員一人ひとりにとって有益な学術・職能団体であり続けるためには、現場の声を的確に反映した運営が重要であると考えております。私はこれまでの教育・研究活動および産学連携の経験を活かし、学術活動の活性化と多様な働き方の支援に寄与するとともに、会員相互のつながりを強化し、地域社会に貢献できる理学療法士会の発展に尽力してまいります。何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



上田 修：恵信リハビリテーション病院

私は、令和6年より士会常設委員会担当理事を務めて参りました。山梨県理学療法士会にはがんリハ、認知症対策、感染症対策、糖尿病対策、訪問リハ、災害対策等の各種委員会が設置されており、それぞれ、山梨県リハビリテーション専門職団体協議会とも連携を取りながら、県からの委託事業実施や県民への啓発活動、県士会員への情報発信・研修会の開催等を行っております。各分野において、社会の中での理学療法士の認知度・期待度の高まりを感じる一方、リハ専門職としての“質”をどう担保し、どの様に発展していくかが問われるフェーズに来ています。山梨県士会は会員数900人程度の小さな会ですが、我々の職種が必要とされ、生き残っていく為の活動・情報交換の場でもあります。これまでの経験を活かし、皆様で作上げる県士会活動に微力ながら尽力させていただきたいと考え、理事に立候補いたします。皆様のご支援の程をよろしくお願い申し上げます。



小林 司：石和温泉病院

私はこれまで4期8年、常設委員会担当理事および副会長として、他士会との連携や県委託事業に取り組んでまいりました。その中で、山梨県理学療法士会としての「会員同士の横のつながり」の重要性と課題を強く感じております。コロナ禍で希薄となった関係性を再構築し、顔の見える関係づくりを進めることが今後の会の発展に不可欠です。第5期目は最終任期として、「つながりの再構築」を軸に、県内施設管理者ネットワークの整備と、現場の声を理事会へ反映できる仕組みづくりに尽力してまいります。これまでの経験を還元し、士会の持続的発展に貢献する所存です。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



高村浩司：健康科学大学

理学療法士を取り巻く環境は、地域包括ケア、予防分野への参画、人材育成、AI・デジタル技術への対応など、大きな変革期を迎えています。その中で、臨床・教育・地域活動をつなぎ、会員一人ひとりが専門性を発揮できる環境づくりが重要であると考えております。

私はこれまで、養成教育、臨床支援、人材育成に携わる中で、多職種連携や地域との協働の重要性を実感してまいりました。今後は、若手からベテランまで会員の声を丁寧に受け止め、学び続けられる仕組みづくりと、理学療法士の社会的価値向上に尽力したいと考えております。



井村順治：恵信甲府病院

私は山梨県理学療法士会において、平成17年度・18年度厚生部長、19年度から24年度まで公開講座部長、25年度からは企画局長として、主に会の企画・運営に携わってまいりました。また、関東甲信越ブロック学会や全国研修会の開催、法人化など、県士会の発展に関わる貴重な経験を積ませていただきました。現在、理学療法士を取り巻く環境は大きく変化し、会員数の伸び悩みや若手会員の確保・定着、多様な働き方への対応など、新たな課題に直面しています。こうした時代だからこそ、会員一人ひとりにとって「入会していて良かった」と感じられる県士会づくりが重要であると考えます。これまで培った経験を活かし、会員の皆様に寄り添いながら、魅力ある県士会の実現に微力ながら尽力してまいります。



鮎川将之： 山梨リハビリテーション病院

この度、山梨県理学療法士会理事に立候補いたしました鮎川将之です。私はこれまで学術局担当理事として、本会の学術活動の研鑽と研鑽機会の確保に尽力してまいりました。昨今の診療報酬改定をはじめとする医療環境の変化の中で、我々理学療法士にはこれまで以上に高い専門性と、客観的指標に基づいた臨床実践が求められています。そのため、これまでの学術局での運営経験を活かし、会員の皆様が日々の臨床疑問を解決し、質の高いリハビリテーションを提供できるよう、生涯学習システムの更なる充実を推進したいと考えております。現場の声を大切にしながら、山梨県における理学療法の発展と職能地位の向上、そして県民の皆様の健康増進に寄与すべく、誠心誠意取り組む所存です。何卒よろしく願い申し上げます。

一般社団法人 山梨県理学療法士会 立候補趣旨（監事）※届け出順

齋藤智雄：甲府城南病院



これまで山梨県理学療法士会において、理事および監事として本会の運営に携わってまいりました。現在の理学療法士を取り巻く環境は激しく変化しており、職能団体としての士会運営には、透明性と効率性が求められています。これまでの経験を活かし、業務及び会計監査を行うことで、士会活動が適正かつ円滑に推進されますよう、監事として尽力いたしたく、立候補いたしました。



有泉静佳：山梨県立あけぼの医療福祉センター

私は当山梨県士会が法人格を取得して以来、理事として当士会の運営に微力ながら尽力させていただきました。また、平成9年度に厚生部長に就任以来、約29年にわたり県士会活動に関わってまいりました。この経験を活かし、当県士会のさらなる発展に寄与すべく、監事に立候補することといたしました。一方で、私たち理学療法士を取り巻く社会状況は厳しさを増しています。社会から理学療法士の必要性がより一層認知され、理学療法士が理学療法士としてこれからも働き続けられるようになるためには、当士会が法律を遵守するという規範意識の向上とより一層の内部ガバナンスの充実は必要不可欠であります。私の力は本当に微力ではありますが、当士会の発展のため監事として協力していく所存です。よろしくお願いいたします。